

滝野川南地区教育環境整備協議会（会議の概要）

〔仮称〕滝野川南地区ブロック協議会（第1回）

■平成15年11月7日

■滝野川第一小学校会議室

■次第■

1. あいさつ
2. （仮称）ブロック協議会設置要綱について

○幹事会の設置

○座長選出について

3. 意見交換

滝野川南地区教育環境整備協議会・幹事会（第1回）

■平成15年12月10日

■東田端地域振興室会議室

■次第■

1. あいさつ
2. 座長選出
3. 今後の検討に向けて
4. その他

■発言要旨とまとめ

- 座長には、西村芳吉氏（田端親和町会会長）が推薦されたが、当日欠席のため後日事務局から依頼することとなった。また、副座長は、多家廣明氏（東田端町和会会長）となった。
- 協議会は16年度までだが、区では統合をいつ予定しているのか。

- (事務局)協議会の意見を尊重し、改築とあわせて考える必要があることから、具体的な時期はまだわからない。ただし、滝野川南地区は小規模化が進んでいる地域であると認識している。
- 中学校よりも小学校のほうが問題ではないのか。
- 中学校を1校にする場合、どちらかの敷地に建て替えることになるのか。
- (事務局)新しい敷地を取得することはないだろう。ただし、両校とも敷地が狭い点や建て替え中の仮校舎をどうするかなどの課題がある。
- この地区では、まちづくり協議会を設置し活動している。そうした活動から人口が増えることも考えられる。
- 数字で示されると、話し合ったところで結論は見えていることになってしまう。
- 中学校だけでなく、小学校もあわせて考える必要がある。特にこれから中学校に進学させる小学校の保護者の意見を取り入れてもらいたい。
- 学校ごとに文化の違いがある。それが一緒になったときに生徒が混乱しないような教育的配慮を考えなければいけない。
- 統合ありきではなく、話し合っていきたい。
- (事務局)小規模校と大規模校のメリット・デメリットについて資料を用意する。そこから話し合っていたらいい。
- 幹事になった人には、できる限り出席してもらいたい。
- 直接保護者に説明する機会を設けたほうが良い。保護者がカヤの外になってはいけない。
- 学校には歴史がある。数合わせのための統合では、将来にわたって汚点を残すことになる。
- 滝一小の周りなどにフェンスで囲まれた空き地が何ヶ所もあるが何か。
- (事務局)区画整理のための事業用地である。
- 中学校の校庭がどちらも狭い。建て替えを考えるとときには校庭が広くなるように考えて欲しい。

滝野川南地区教育環境整備協議会・幹事会(第2回)

■平成16年2月12日

■田端ふれあい館第1ホール

■次第■

1. あいさつ
2. 第1回幹事会のまとめ
3. 望ましい学校数の検討
4. その他

■発言要旨■

- 前回幹事会発言の中で、他校を誹謗中傷するものがあった。今後の会議のためにも撤回してほしい。
- 言葉が足らず誤解を受けるものがあった。撤回する。
- 少人数では教育目標を達成できないことを現場の先生から話して欲しい。
- 部活動は、中学生の健全育成に占める割合が大きいですが、教員数や部員数が少なくなると運営が難しい面がある。
- 小規模校では、子ども同士の間関係が固定しまう。個性を発揮したい時にはレッテルを貼られている。周りに流されやすく、表現力や力強く生きる力に欠けるなどの欠点が考えられる。
- 小規模の良さもある。授業中に発言の機会が増える。きめ細かな指導ができる。全教員が全ての児童に関わることができ、子どもたちの存在意識が高まる。学校は、児童一人ひとりが評価基準に達するようにすることが大切だ。
- 教員の自覚により小規模校のデメリットを補うことは可能だが、限界がある。部活動は、保護者の要望が大きく、生徒の期待に応えきれない。中学校ではある程度の人数が必要だろう。理想的には1学年4クラス欲しい。田端中と新町中が一緒になってもそれに満たない。
- 小規模校のメリットを大規模校に広める方策を考えることも大切である。学校ファミリーの仕組みもある。
- 滝野川南地区の現在の状況は、学校規模、学校配置ともに適正であると考える。
- 協議会の設置により、指定校変更が増え、結果としては学校小規模化を煽っているようなものだ。
- 中学校では、最低でも1学年3クラスは必要ではないか。
- 田端中と新町中を一つにすれば3クラスになり数のうえでは適正になる。しかし、配置をどうするのかは非常に難しい問題だ。
- 滝七小は昔から小さい学校であった。他の学校に行きたい子どもはいないし保護者もまとまっている。
- 中学校では、部活動ができないと子どもにとって不利になる。環境整備が必要だ。
- 部活動への関心は高い。部活動で進学する学校を選ぶ人も多い。
- 小規模校のメリットとして地域の目が行き届くこともある。小学校と中学校のつながりやこれまでの学校の歴史はとても大切に思う。移転を考えると寂しくなる。
- 指定校変更の基準が公表されたことにより、さらに学校選択制と同じような状況になっている。それでも新町中に進学する人がいるのだから統合は考えられない。また、アスカタワー付近は風が強く通学路として適さない。
- 小規模校と大規模校のメリットとデメリットは、小学校と中学校と分けて分析することも必要だ。保護者のアンケートの実施も必要ではないか。子どもも不安に思っている。
- 私立学校に進学する人が多い。これからは、公立学校もPRしていくことが必要だ。
- なぜ、滝野川第五小学校は、同じブロックに入らないのか。

- (事務局発言) 中学校の通学区域にもとづいてブロック分けしたため、堀船中学校のブロックに含まれる。
- 突然、統合の話がもちあがった印象である。
- (事務局発言) 学校の小規模化と校舎の老朽化が課題となっている。適正配置とあわせて学校改築を考える必要がある。
- 一般保護者は、改築のことを知らないだろう。保護者がカヤの外になってはいけない。
- 改築の具体的な話をした方が理解を得やすいのではないか。
- (事務局発言) 建て替えありきで考えるのではない。まずは適正規模を確保することである。
- 小学校と中学校を同じ敷地に建てることも考えられるか。
- (事務局発言) 選択肢のひとつにして結構である。
- 小中一貫校とする考えはあるのか。
- (事務局発言) 小学校と中学校の緊密な連携をめざしており、現在のところ小中一貫の考えは無い。

滝野川南地区教育環境整備協議会・幹事会(第3回)

■平成16年5月17日

■田端ふれあい館

■次第■

1. あいさつ
2. 委員自己紹介
3. 第2回幹事会のまとめ
4. 望ましい学校数の検討
5. その他

■発言要旨■

- 望ましい学校の数は、適正規模からすれば自ずから数が出るが、数から入るのはいかがか。4月から新しい学年が始まったが、実数はどうか、増減はあるのか。
- (事務局発言) 中学においては1学年3～5学級が適正規模。田端中は平成15年度190名6学級から平成16年度192名6学級、新町中は平成15年121名5学級から平成16年度107名4学級。
- 1学級の人数はどの程度か。
- (事務局発言) 学校により違うが、北区の平均値は、小学校28名、中学校32名。
- 来年3月に答申を出すと言うことか。

- (事務局発言) 来年3月に答えが出るのが望ましい。目安として今年度いっぱい。地区により早く進んでいるところもある。
- 他の地区の動向はどうか。
- (事務局発言) 望ましい学校の数、配置、時期について検討いただいているところがある。一番早いところは王子で、望ましい数、配置について協議会でまとめ、時期について検討中。配置までまとめたのが赤羽西。この2地区が先行している。
- 望ましい数は、この地区では現在の2校を、1つにするか2つのままか、ということか。
- (事務局発言) 協議会では一つの方向性をまとめていただく。最終的には議会で決めることだが、地域の考えを受け止め、教育委員会としての意見を示したい。
- 大規模校のメリット・デメリットは話をしたが、一般論として統合することのメリット・デメリットはどうか、弊害など、現場の先生の考えを。
- 統合の点ではマイナスはない。通学距離が延びるが、生徒数が増えると学校の勢いが付く。
- 子どもを中心に考えると、学区域が拡大すると通学時間が長くなる。東京では学区域が狭いので近県に比べれば、クリアできなくはない。同じ指導要領に基づいて指導しているが、学校の伝統、文化が違うので、混ざるまでに時間がかかる。子どもは早く慣れるが、教員は自校のやり方を主張して、すりあわせに時間がかかる。他区ではかなりの数で統合しており、その点は既にやった学校から情報を得れば難しくはない。2校を足して300名を超えない。将来もっと少なくなっていくとすると、第2次の統合など、全区的な将来の青写真を行政の方で対応してもらいたい。
- (事務局発言) 統合のデメリットについて、生徒については特に心配していない。友達が増えて活力ある学校が生まれている。むしろ、保護者間の感情、PTA活動など溝がどうしても1~2年ある。北区では中学校の統合経験がない。進路指導について保護者の不安感があるかも知れないが、他区の話では特に懸念すべき課題ではなかった、との事だ。全体の青写真についての意見はもっともな話だが、適正規模等審議会答申では、全体から地域ではなく地域で考えたものを全体にしていく、としている。また10~20年後の統合については、ないとは言い切れないが、公立の学校である以上、安全な通学距離の確保の視点は欠かせず、徒歩通学を前提にしたままでの再統合はちょっと考えにくい。
- (事務局発言) 適正規模等審議会では通学距離を考えて7ブロックに分けた。通学は徒歩が前提なので、このブロックの中でどうするのかを考えていただきたい。
- 統合に特に弊害はないということか。
- 新町中から田端中に来るとして、線路を越えるのが嫌だとか、近い方がいいとかがある。もっと中心近くに作れないものか。
- (事務局発言) 現在のところ、新たな敷地はない。
- 統合となると、田端中か新町中のどちらかの場所になるということか。
- (事務局発言) 小学校をあわせて検討するかどうかがあるが、いずれにせよ、現在の学校の敷地を利用するしかない。
- 田端で一つの学校区を作ってみたらどうか、大きなビルを1つ建てて、そこに集めるとか、そのような構想はどうか。

- (事務局発言) どこかに新しくできないかという意見は他地区でもある。田端では新しい大きな土地は考えられない。かつ、それぞれの校地が狭い、中学校の平均値は9000㎡弱だが、この地区は9000㎡以上の校地は小学校を含めてない。小学校との合築も敷地的に厳しい。既存の用地を考えるしかない。敷地から考えると難しいので、数→場所→時期の方が話が進めやすいのではないかと考える。
- 例えば、田端中に新町中の生徒も来ると、どうか。
- 大幅に増えるわけではないので、現状の校舎・校庭で受入可能。
- 新町中ではどうか。敷地を広げられるか？
- 北区で一番狭いところである。
- 今の話は数の検討であるので、田端中か新町中か、ということではない。生徒数の見直しはどうか。
- (事務局発言) 平成20年度の推計として2校合わせて218名6学級、望ましい規模には満たない懸念がある。現状のままでいいものかということでお話している。
- 将来的にはもっと少なくなるかも。
- 最後には教育委員会が決断するならば、この話をしても仕方ないのではないか。
- (事務局発言) 今のままではいけないと考え、検討していただいている。中学校において適正規模が必要なのはほぼ合意があるが、地域には事情がある。地域の中でどう考えるかは大きな要素、話し合いの過程も含めてよりよい中学校をつくる経過、いろいろ実態を含めて議論することが必要。地域の皆さんが子どもたちのためにはこういった線でいうものを教育委員会としてまとめて、議会に提案したいと考える。
- もう少し具体的な話がないと、考えられない。
- 望ましい数で言えば、答えは出ている。適切なのは分かっている。
- その表現が難しい。
- (事務局発言) この地域において、望ましい数は1つ、このまま2つでは望ましくないと言う方向が見いだせるということならば、例えば、田端中、新町中、滝一小などの場所においたことをシミュレーションで示すことが出来る。
- 滝一小は存続できるのか、中学校のために動けということにならないか。
- (事務局発言) こういう課題がある、ということを示すことになる。
- こういう話が伝わると、滝野川会館辺りの子が飛鳥中へ行くことも考えられるのではないか。
- (事務局発言) 1校にした場合の距離・問題等をまとめて、次回提示させていただいて、議論を進めてみてはどうか。
- 具体的な青写真がないと、議論が進まない。
- 来年の3月を5年くらい延ばしてみてもどうか。生徒数もはっきりする。
- (事務局発言) 小規模化が進む中で対応をどうにかしなければならない。新町中は5学級から4学級になった。中学校長会では各学年6クラスが望ましいとしている。小規模校だと正規教員が非常勤に置き換わるなどの課題がある。
- 5年延ばせるならば5年延ばしたい、上の方は上がいいし、下の方は下がいいと、そうなるに決まっている。

- (事務局発言) それでは、子どもたちにとって、という視点が消えてしまう。山の中の学校ではなく、大都市の学校で、いい規模の学校が出来るのならば、その機会をつくってあげたい。地域の方にもそう考えていただきたい。
- 学校側としては、不都合はないのか。
- 2校で確認したことだが、学区域が広がるので通学時間は延びるが、これはケアできないことではない。生徒数が多ければ学校としてはいい。
- 学区域については、既に選択制の区もある。2校を一つにしても不本意でも大きくはない。
- シミュレーションをいただいて、そこからこれではだめとか具体的な話が出てくる。
- 個人として、統合するならば、まるっきり新しくするのが理想、人工地盤などでもシミュレーションの一つに入れていただきたい。小中高一貫教育もあるのだと、そういうことも考えて欲しい。
- 理想、懐具合もあるが、ケチケチしないで、学校を新しくすれば子どもたちも移動しやすい。新町中から田端中となると、かわいそうにも思うが、校風や伝統を打破すれば、いいことと思えなくもない。金が有れば何でも出来るが、なければ何とかするしかない。
- 子どもにとって何がいいかということの主眼に考えた方がいいと思う。シミュレーションをいただいてから考えた方がいい。
- 次回それを乗り越えていけばいいと思う。
- (事務局発言) 次回、1校案のシミュレーションを提示したい。

滝野川南地区教育環境整備協議会・幹事会(第4回)

■平成16年6月28日

■東田端地域振興室会議室

■次第■

1. あいさつ
2. 第3回幹事会のまとめ
3. 学校配置のシミュレーション
4. その他

■発言要旨■

- (事務局発言) (シミュレーションの説明)校舎の改築には設計を含めておおむね4年と考えている。中学生として活動するには、より広い面積の確保が必要だろうという視点からの提案。Ⅱ案・Ⅲ案については、敷地面積の広い小学校と併せてこの地域の学校として考えて頂こうという提案。

- 他に良い案があるかを含め、皆さんの意見を。
- これは他の町会長も見ているのか。
- (事務局発言) この幹事会での提示です。
- そろそろ全体会をやって、経過を知らせた方がいいのではないか。
- 他にも町会長はいる。こういうことをやっていたと聞いてもらわないと、私たちだけで決めてしまう訳にはいかない。
- シミュレーションを見ても難しい。地元の都合もあるだろうし、意見を出しにくい。
- (事務局発言) それでは、本日までの内容について全体会を開催させて頂きたい。まずは、それぞれの案のいい点、課題を出して頂いて、比較検討して頂きたい。
- 前もって経過を送っておいた方が良くと思う。
- (事務局発言) そのようにいたしたい。
- シミュレーションは現実的だと思うが、とうとう教育委員会が考えを出してきたと思う。
- どの案でも、中学校を改築するということか。
- (事務局発言) 改築を強く望んでいるし、前提としている。
- 北区にそれだけのお金があるのか。
- (事務局発言) 学校跡地の利活用を視野に入れざるを得ない。それでも新しい学校を、という地区もある。
- 他に配置の案はありますか。こういう案もあるという知恵を出して頂きたい。
- 今は中学校の話をしているのだから、I案しかないのではないか。
- (事務局発言) 小学校を含めて考えるのかどうかということを含めて、議論頂きたい。本来この場は中学校の話ではあるが、前回の検討を踏まえて、小学校を含めた案を出した。
- どれがいいとなれば、下の方からすればⅡ案、田端中よりも滝野川第一小の方が近いし、新校舎ならば、田端中もこちらにまで来てくれるのではないか。
- 小学校のことまで話をもっていった方がいいものか。
- 現状のままで良いとか。
- 3月までにどれかを選ぶのが結論としては早い。
- あくまで中学校だけで考えていくよりも、小学校を含めた全体で考えるべきだと思う。
- Ⅱ案を否定する訳ではないが、通学路の問題で、田端の大通りを越えて、区画整理の道路も越えないといけない。小学校の子どものことを考えると、どうか。
- 施設の概況からすると、滝野川第一小が一番広い、次いで滝野川第七小。
- そんなに広くは見えないが。
- 昔の建て方なので、余裕がある。今の建て方をすれば、運動場はあまり変わらないだろう。
- 今日初めて、小学校の話が出た。小学校の統合となると、ちょっと問題がある。中学校だけで考えないと。
- 前進できるような話をしないと、どうしようもなくなる。
- 中学校2校を1校にすると、小学校は全て同じ中学校に通うことになる、一番良い場所に中学校をつくることを考えてはどうか。

- 中学生と小学生の体力差がある。小学校1年生の子を歩かせても良いところを考えて頂きたい。
- 滝野川第一小と滝野川第七小は、坂もあるので、6分位の距離か。
- 色々なところから来るから、学校と学校の距離だけでは言えないが。
- 今の子には申し訳ないが、私の考えではⅡ案を採る。田端中よりは近いし、土地も広いし、新校舎になれば。
- 3つのどれかとなればそうなる。
- 敷地の制約はあるが、滝野川第四小の敷地に中学校を建てて、新町中に滝野川第四小を移転するという案はどうか。
- ちょっと面積が狭いか。
- (事務局発言)滝野川第四小は5300㎡ある。新町中へ移転するとさらに小さくなるが、隣の公園を入れた場合を含めて、案としては用意する。
- I案が一番問題ない。小学校に手を付けるのは大変ではないか。
- 滝野川第一小と滝野川第七小の校地面積が大きい、これをこのままでいいものか。
- 中学校は2校のみ。最大公約数をとると、小学校をからめざるを得ないという気がする。
- その点がどうなのか。基本的なものを固めないと、時間がかかるばかりではないか。
- (事務局発言) 本日この場では意見が出しにくいということならば、先ほどの第Ⅳ案(滝野川第四小学校敷地の利用)を含めて検討シートを作成するので、無記名で事務局に提出して頂きたい。それを整理して、幹事の皆さんに示して、全体会に示したい。
- 全体会を先にやったらどうか。
- 幹事会で検討していますと、決定ではなくてやっていることを示さないと、幹事会は何をやっているのだということになる。
- もう一度幹事会を開いて、意見をまとめて、全体会を開くということにしたい。

滝野川南地区教育環境整備協議会・幹事会(第5回)

■平成16年8月2日

■田端ふれあい館第1ホール

■次第■

1. あいさつ
2. 第4回幹事会のまとめ
3. 望ましい学校配置について
4. その他

■ 発言要旨 ■

- (事務局発言) (望ましい学校配置について説明)
- 小学校を巻き込むのか中学校は中学校で議論をするのか、皆さんのご意見を頂きたい。
- 小学校を巻き込むとなると、小学校を改築してからとすると8年かかるのか。Ⅱ案としても、滝野川第一小と滝野川第七小を統合して、中学校の校舎を造って、小学校校舎を造るとなると、8年後になる。できるなら4年でできるⅠ案がいいのではないか。
- 初めは中学校だけということだった。小学校の話が急に出てきた。
- Ⅰ案とすると、改築はどうなのか。
- (事務局発言) 面積としては可能である。校庭面積は北区の中学校の平均を下回るだろう。
- それは建て方次第ではないか。1学年3学級で合計9学級として、今の校舎よりも狭くて済む。校庭が広くとれるのではないか。
- 私が田端中に通っていた頃、1学年5学級あった。15学級プラス特別教室があった。プール・体育館を重層化すれば、校庭の面積が広がるのではないか。
- 田端中と新町中を統合したとして、どんな工事をするのか。
- (事務局発言) 田端中は昭和36年建築、築43年になり、決して新しい学校とは言えない。校庭を広くするために体育館とプールの重層化をしたとして、約10億円かかると見ている。建物の寿命は60年と見ているが、お金をかけて15～16年程度で良いのか。そういったことを考え、新築して60年先を見通してはどうか、と考えている。30億円を投じて60年間悔いのないようにご議論を願いたい。
- 耐用年数ぎりぎりなので、新築するということか。
- 話の初めは中学校の適正配置ということだった。小学校の話が入ってきて、ゴチャゴチャになった。ひとつにまとめてやった方がいい。
- 中学校のことだけで考えるべき。そういうことで集まっているのだから。
- (事務局発言) 5月17日の幹事会において配置案を検討した際に、小学校はどうなのかということだったので、小学校に関わるシミュレーションを加えてⅠ～Ⅲ案を提案している。前回、滝野川第四小の用地を使うこともあり得るのではないかと意見が出たので、Ⅳ案として加えた。これら4つの案についてご検討頂きたいと提案した。
- 考えてみると、中学校は中学校で切り離した方がよいということか。
- 良い案があるならば、何10年と続くのだから、含めても良いのではないか。より良い案だったら、中学校のみにこだわることはない。狭い新町中に行って、3年間窮屈な思いをしても良いものか。滝野川第七小の現状などからしてもっと広く考えてはどうか。
- 田端中と新町中の生徒を新町中に収容できるのか。
- (事務局発言) 校庭は狭いが、現状の教室数から対応は出来る。
- 現在でも狭いと言っている。収容できるのか疑問に思う。
- 引っ越した段階で統合になるのか。例えば、田端中の生徒を滝野川第一小や滝野川第七小の空き教室を間借りして、建築期間を過ごすという考えはないのか。

- (事務局発言) 解体工事を含めて、2年半から3年と考えて頂きたい。2～3年の間借りは、設置基準上は仮住まいではなく田端中の校舎として扱うことになる。中・小のエリア分け、校庭の問題がクリアできるかが課題となる。
- 事務局は新町中の校舎への収容が出来ると言うし、無理だという意見もある。どちらが信用できるのか。
- (事務局発言) 教室数は17教室あり、両校で9学級であることから、物理的に不可能ではない。学習するには支障ないが、校庭が狭いのは事実で活動は難しいのではないかというご意見はもっともだと思う。
- 滝野川第七小の子を滝野川第一小に移動すれば、滝野川第七小校舎を中学校として使える。
- (事務局発言) 1つの校舎に2つの小学校は、設置基準上は認められない。
- 校庭の問題は、小・中の利用がバッティングしなければ可能だ。新町中に通うとなれば、飛鳥中へと行ってしまいうだろう。そうしないためにも、田端中の生徒は間借りしてやらなければならないのではないか。
- (事務局発言) 新町中の現況は普通教室9室・特別教室8室、田端中と新町中を併せて、教室としてはギリギリであり、転用している教室を普通教室に戻したりすることになるだろう。
- 一番大切なのは校庭だ、それを無視は出来ない。
- (事務局発言) 新町中は区内で一番小さい学校、狭い中で工夫している学校と言える。
- 豊島区で学校跡地を売却したが、そういうのを考えられないこともないだろう。
- 田端中の建て替えは、最終的には議会が決めるのか。
- (事務局発言) 学校改築計画は北区全体の問題であり、資金繰りも含めて、企画部で担当し、議会が決定する。改築を約束できる立場にないが、教育委員会としては強く望んでいる。
- 田端中は耐震工事が終わっている。統合して3学級であれば、その方向で問題ないのではないか。
- 必ず改築されるか分からないならば、田端中はそのまま使えるのではないか。
- それが一番ややこしくない。
- 田端中と新町中でお互いに協力しあってやる方がいいのではないか。新町中に来て新しい友達が出来る可能性もある。
- (事務局発言) 北区の基本計画を策定中だが、それがはっきりしてくると、改築の方向についてもっとはっきり言えるところである。学校適正規模等審議会第二次答申では、統合にあたっては施設の更新を考えるべきとしている。この協議会で改築はしないで統合するとしても、地域の考えとして尊重する。
- 無難な答申の方がいいのではないか。
- (事務局発言) 幹事会の意見としては、中学校は1校が望ましい、位置は田端中の位置が適切、改築については触れない、ということでよろしいか。
- 改築も何もしないではまずいのではないか。改築して広くなるとか言うことがあれば、我慢するが、改築も何もなしで統合するではどうか。
- (事務局発言) 統合にあたって手入れはするので、何もないということはない。

- 田端中・新町中それぞれに良いところがある。こういう計画があるからいかがか、なら分かるが。
- (事務局発言) 改築が前提条件の統合では難しい。いつ統合を実施するのかという議論をお願いしたい。学校の数・位置が決まって、全体会に諮り、その上でいつ実施するのが適切かを議論頂きたい。
- 小学校まで踏み込むのは難しいと思う。
- 改築できるかどうか分からないものを滝野川第一小でとはいかない。
- (事務局発言) 中学校のみで考えるのか、面積が広い小学校を含めて考えるのか。どのように考えるか。
- II案・III案では話にならないのか。
- (事務局発言) この地域として強く望むということならば、その実現に向けて努力する。基本的には北区の学校は改築をしなくてはならない状況であり、その中では中学校の優先度を高めようと検討している。中学校の改築は20年30年先の話ではないと考えている。
- 中学校は1つが望ましい。田端中学校と新町中学校を統合して、統合新校を田端中学校の位置に置く。改築することが望ましい。でいいのか。
- (事務局発言) 小学校との兼ね合いについて改築まで踏み込むのか踏み込まないのか難しいところだ。改築を念頭に置くのか、統合後に改築を考えるのか。
- 検討シートでは、長所が多いのがII案、課題が少ないのもII案。これをどう考えるのか。
- II案は小学校も関わる。中学校も小学校もめっちゃめっちゃになるから分けて考えないと。
- より良いというものがあれば、検討しても良いのではないか。
- 統合となれば、田端中しかない、今はそれしかない。
- (事務局発言) シミュレーションの4つの案と、改築は統合してから検討するという案を、全体会に諮って、一定の方向を見いだせるか。
- それは難しい、中学校は中学校に絞らないと、と思う。
- (事務局発言) より良い案があれば検討をという意見もあるが、今までの議論からIV案は採らないと言うことか。
- 中学校は中学校として、分けて考えてはどうか。皆さんの意見はどうか。
- (事務局発言) I案で全体会に諮って、これでは困ると言うことになる可能性はないか。
- それはあるだろう。
- II案・III案は滝野川第一小・滝野川第七小が関わる。別の部会をつくることになるのではないか。
- 話をわかりやすくした方がいい。中学校なら中学校をどうするかとしないと。小・中を交えると、地域の問題が出てまとまるものもまとまらないのではないか。
- 小学校を含むと3つも4つも駒を動かすことになる。余計に時間がかかることになりはしないか。
- やはり先のことまで考えて、5年10年先に小学校の統合がないとは限らない。小学校の統合が来るのならば、狭い土地に30億円かけるより…とならないとも限らない。今の田端中に新町中の生徒も来ると、吸収された意識がきまとう。田端中の位置になるとなれば、犠牲を払う代償ではないが、やはり新築の校舎は条件としたい。

- シミュレーションを見ると、広さ・施設は窮乏であり、Ⅱ案になるが、現実的にどうかと見ると、Ⅰ案中心でどうか。
- 中学校の適正配置と言うことで始まっている主旨を活かすと、Ⅰ案と思う。小学校を含めると、地域の混乱を招くだろう。
- 4つの案の中では、中学校のみならば1案。Ⅱ案は理想だが、時間がかかる。
- Ⅰ案に賛成、異論は出るだろうが、理想を実現するのは難しい。
- 小学校を一緒に考えるべきだと思う。とりあえずやった統合や改築では後悔することになると思う。たとえ時間がかかってもその方がいい。
- (事務局発言) 中学校の統合と言うことで、全体会でも議論するか。
- やはり同じようにⅠ・Ⅱ案で割れると思う。
- 幹事会の意見としてはこうだと出すのか。
- (事務局発言) 従来そうしているが、2つの考え方があったと報告することになる。地域によって2つに分かれたままだとすると、どのようにすると年度末までにまとまるのか、座長と次回の開催について相談させて頂きたい。

滝野川南地区教育環境整備協議会(第2回)

■平成16年9月29日

■東田端ふれあい館ホール

■次第■

1. あいさつ
2. 幹事会の検討経過について
3. その他

■発言要旨■

- (事務局発言)(幹事会経過報告) 1校の新築に約30億円を投じるのだから、後年後悔することのないようにしなければならない、時間がかかっても地域にとって最も望ましいかたちを考えるべきで、そのためには小学校をはずしては考えられないという意見と、この協議会は中学校を優先して議論することで始まったのだから、急に小学校を議論の俎上に乗せるのは混乱を招くだけであり、まずは小学校にまで話を拡散させず、中学校間でまとめるべきだという意見に分かれている。

事務局としては、充分議論して協議によって方向性を導いて欲しいと依頼した。第3回幹事会以降、中学校の数としては1校ということを前提に議論を進めている。現在、それぞれの町会・自治会長会で現状を説明し、調整がつくものなのかを話し合っている段階である。

(学校配置シミュレーションについて)なぜ小学校が議論の俎上に乗ったかという点については、敷地の広さが大きく関わる。この地域で最も広いのが滝野川第一小学校。次いでほとんど差がなく滝野川第七小学校、田端中学校、新町中学校ともに狭いという現状から、このような提示になった。

- 中学校は1校がいいということで幹事会では議論が進んでいるが、全体会で確認をしていない。皆さんにご了承頂けるかどうか。異議がないならば、中学校は1校を前提として進めていきたい。
- (異議なし)
- 次に位置について、自由な意見を頂きたい。皆さんの意見を伺って、幹事会で検討したい。
- 傍聴者の発言を認めるか。
- (事務局発言) 基本的に委員の皆さん以外は認めないが、座長の了解があれば構わない。
- 今日は全体会なので、色々な意見を頂いて、次回以降の幹事会で検討したい。
- (事務局発言) シミュレーションの学校配置について、色々なご意見があり、ひとつの方向性は見いだしていない。色々な意見を頂きたい。
- 1校が望ましいと言うところは変わらないが、これは地域でも話したが、田端中学校の位置という案がいいとは思わない。これは教育委員会の責任でもあるが、話を中学校と絞ったのでこうなった。この地域には学校は5つしかないのだから、小学校も含めて考えてはどうか。中学校2校だけで考えたのでは、広い方の田端中の位置になるだろうが、中学生にとっては運動場の広さが大事だと考える。
- (事務局発言) 事務局としては、多数決ではなく協議によって決めて頂きたい。
- 田端地区、東田端地区それぞれの考え方があって平行線ではないか。また同じ考え方の繰り返しになるのではないか。
- 滝野川第七小学校も児童が減っている。新町中学校と田端中学校の子が通えばいいのではないか。少し遠くても中学生ならば通えないことはない。
- 滝野川第七小学校へ中学校が移り、小学校は滝野川第一小学校とする、という考えですね。
- 上田端親和会は一本の道で小学校の学区域が分かれている。お祭りなどの行事に来られないことがある。一緒になればいいと思う。
- 町会の中で学校が分かれているとやりにくいという話だが、そういう点はある。
- それは田端地区の事情だろうが、大きい土地の所、Ⅱ案でお願いしたいというのが希望。それ以外ならば、滝野川第四小学校の場所で小中一貫校という案もある。
- (事務局発言) 協議会の進行では段階を追って検討をお願いした。幹事会では中学校の数は1校だろうということで、位置について議論をしている。全体会では現状の議論の状況を理解していただき、まず、学校数について確認願いたい。
- 中学校は1校として、それに基づいて、位置の検討をお願いしたい。
- (事務局発言) 位置については色々議論があることは了解しているので、町会・自治会、PTAそれぞれの意見を頂いて、幹事会で詰めていきたい。

- (傍聴者) 経過は了解した。PTAの現役・OBをメンバーとして、20名位で会を構成している。東田端地区としてどうやったらいい方向性が生まれるか話し合いをした。シミュレーションによって進んでいるが日が浅いと感じる。豊島区ではこうやっている、品川区ではこうやっているというのがある。全体に聞いてやって頂きたい。他区のケースも参考にさせて頂きたい。先の先まで考えてみんなで考えていきたい。事故防止などの環境問題も考えて頂きたい。
- また次の幹事会で幹事の意見を募って、皆さんの意見を伺っていきたい。
- 確認だが、1校が望ましいということでもいいのか。
- 中学校は上に1校、下に1校でいいのではないか。
- (事務局発言) 昨年10月からお話ししてきたことだが、この地区は上下ではなく、滝野川南地区として小学校3校、中学校2校の中で考えてきた。この5校をどうあるべきかとしてお考え頂きたい。中学校の望ましい数は1校、田端中学校と新町中学校を統合することが望ましいということで理解している。
- すぐに決定できるものでもないので、より良い考えを出していきたい。
- (事務局発言) 位置についてはここで議論するのも難しいかと思う。事務局あてにご意見を頂きたい。中学校1校が望ましいということで協議会だよりを発行する。そこにご意見をお寄せくださいと大きく記載して、ご意見を頂けるようにしたい。
- この問題は時間をかけてやるしかない。
- (事務局発言) この協議会のきっかけとして、学校には一定の規模が必要だろうということがある。特に中学校では多様な教育のため、生徒たちのためになると考えている。より良いかたちを目指して、今のままでいいのか、1校でどうかという話である。今あるかたちを動かすのは難しい。また、地域には学校に対する大変な思いがあるが、20~30年後を考えながら、話し合っていきたい。
- (傍聴者) 将来予測の数は、在校生はそのまま足しているのか。新町中がなくなると、東田端地区の子は荒川区の中学校や私立中に行ってしまうのではないか。
- (事務局発言) その点は難しいところ。現在の状況は、都立高の凋落が背景にあると考える。公立高から私立高への流れがある。都立高改革の中で、公立中をどのように見直すかは不確定。新町中学校から他区への動きは読めないところ。荒川区は教育改革を進めているが、北区も同じように進めているし、小学校と中学校の連携も進めている。保護者がどう考えるのか読みにくい。統合校の生徒数は、基本的には田端中学校と新町中学校を併せた数と考えている。学校が遠くなるという考えはあろうが、適正規模等審議会答申は、中学校の通学距離は1.5キロメートルとしている。20分ほどが中学生にとって遠すぎるかどうか。荒川区の学校を選ぶか、北区の学校を選ぶか読みにくい、北区を選んでもらえると思っている。
- 児童生徒の推移予測は、私立中への進学が増えると考えているのか。
- (事務局発言) そのようには考えていない。現在の状況をもとにしている。
- 滝野川第七小学校の将来推計はおかしいのではないか。
- 推計値は出さないで頂きたい。中学校のことを考えるのならば、小学校の数値はいらない。

- (事務局発言) 最初の説明会でその話は頂いたが、事務局として現状認識をして頂きたいので出した。また、東京都では平成16年度推計から、20人以下の学年がある学校は推計をしなくなった。そのため昨年のもを使用しているの、おかしな所はある。
- 児童生徒数がないと話が分からないので、あると良いと思う。
- (傍聴者) 地域で意見をまとめて提出したい。検討して頂きたい。
- (事務局発言) 事務局に頂いて、幹事会に示したい。

滝野川南地区教育環境整備協議会・幹事会(第6回)

■平成16年11月29日

■田端ふれあい館第1ホール

■次第■

1. あいさつ
2. 第2回全体会のまとめ
3. 滝野川南地区の経過
4. 望ましい学校配置について
5. その他

■発言要旨■

- 滝野川南地区の経過報告についてだが、10月21日の部分、西ヶ原東地区自治会連合会では、このような結論に至ったわけではない。
- (事務局発言) 結論ではなく、このようなご意見をいただいたというものを記載している。
- 東田端地区としては、新町中は残したいが、それが不可能ならば、滝野川南地区の小中5校の中で、中学校2校で検討するには限りがあるので、小学校を含めて結論を出すべきだと思う。議論が平行線であっても、来年3月までにある程度の結論を出すならば、詰めていかないといけないのではないか。
- 私も中学校だけで考えるのは難しいのではないかと思う。
- (事務局発言) 全体会のまとめと滝野川南地区の経過報告については了解されたということよろしいか。
- 協議会だよりを出して、事務局には意見はきていないか。
- (事務局発言) 今のところない。
- 関心がないのか、見ていないのだろうか。
- 前回の(事務局発言)要旨の中で、1校の新築に約30億円を投じるのだからという表現があるが、新築すると決めつけるのはどうか。
- (事務局発言) 仮に1校を作るとすればおおむね30億円という表現の仕方に改めたい。

- 小学校を巻き込むとなると、2校を建て替えるということか。
- そこまで話は進んでいない、中学校についてどうしようか、小学校を交えて話をしようかというところだ。
- 中学校について考える協議会だが、経過を見ると、どの場所にするのかは別にして、小学校を含めて考えていかないと仕方がない。交えて考えざるを得ない。視野に入れて考えるほうが将来的にもよいと考える。
- 場所は別にしても小学校も交えてという意見か。
- 中学校の望ましい数は1校であるが、中学校は中学校として考えながら、中学校だけではなく、付随して小学校も含めて考えてはどうか。小中学校5校をまとめて考えるのではあまりがつかない。
- あくまで中学校を1校にするとして、その配置を考えるうえで、小学校も視野に入れていかないと。
- 小学校も考えに入れるということか。
- 小学校も付随して考えてはどうかと。
- 中学校を1校にするという方針だけでいいのか。
- 中学校を1校にして、付随して、その配置については小学校も含めて考えていかざるを得ないだろうということ。そうしないと前に進まないだろう。
- 小学校を視野に入れてとなれば、場所はどこかとなるが。
- 今までは、中学校の検討なのだから小学校を巻きこむべきではないという意見もあったが、平行線のままだから、今回これで小学校も含めて考えるのだと決めていきましょうということだ。
- 中学校を1つにするということで、まちの事情として、避難場所が滝野川第四小と新町中になっているが、そういう機能はどうなるか。
- (事務局発言) 跡地利活用が決まるまでは、防災機能はそのままである。統合の実施時期などが決まっていないので跡地利用の検討はしていないが、それ以降、企画部門の利活用検討会で方向性が示される。この協議会では子どもたちの教育環境を整えるという点でご検討いただきたい。
- 中学校の配置を考えるにあたって小学校もあわせて検討するということでよろしいか。
- (異議なし)
- 協議会だよりについては、単Pでは、意見が出るほど状況がわかっていない面がある。将来的に中学校は1校で、配置場所は小学校を含めて考えるという点を、協議会だよりなどで、誤解のないような表現を心がけて欲しい。例えば、来年から統合するのではないかなどと誤解が発生しないように。
- 子どもたちにどうしたら良い教育環境を作れるかという点で、読まれる工夫が必要。

滝野川南地区教育環境整備協議会・幹事会(第7回)

■平成17年2月2日

■東田端地域振興室会議室

■次第■

1. あいさつ
2. 第6回幹事会のまとめ
3. 検討報告書(案)について
4. その他

■発言要旨■

- 幹事会としては今回が最後になるだろう。本日確認した事項を全体会に諮りたい。地域としてのまとめとなるので宜しく願いたい。
- (事務局発言) (前回のまとめについて)(検討報告書案について)
- 前回のまとめ、報告案についてご意見を。
- (事務局発言) 前回の幹事会のまとめについてはご了解頂いたということによろしいか。続いて報告書案についてはどうか。
- 協議会方針の文章だが、現在の中学校2校を1校に再配置するのが望ましいというのは良いが、配置について滝野川第一小・滝野川第七小という具体的な小学校名を記載するのはいかがか。
- (事務局発言) 今までの検討経過の中で出てきているのでご提案として記載した。幹事会でご意見があれば修正する。
- 中学校2校を1校に再配置するというのは良いが、小学校名の表記は避けてもらいたい。
- (事務局発言) 前回の幹事会において、中学校を1校に再配置する、その配置を考える上で小学校も視野に入れるということでご了解いただいた。2番を外すということか。
- 小学校を含めてということは良いが、学校名を記載するのはどうか。
- 校名を入れるべきだと思う。答申で具体性を出した方が良い。滝野川第一小・滝野川第七小ということは目に見えているのだから、入れた方が話は進むのではないか。
- 小学校を含めてという表現の方が、保護者が浮き足立たないのではないか。
- (事務局発言) 前回までの確認事項は小学校を含めてということだったが、検討の過程では具体的な校名を挙げて話をしてきているので、今回の報告書案とした。
- 具体的な校名を入れるのはいかがか。
- 中学校の適正配置を考えるのであるから、そちらを先行させなければおかしくはないか。
- 前回小学校の位置を含めて検討するということになったのではないか。
- シミュレーションで色々検討をしたが、具体的な校名ではなく、小学校を含めてと書いた方が良いのでは。

- (事務局発言) これは案として提示したので、幹事の皆さんに判断していただきたい。『統合中学校の位置については、小学校の位置も含めて検討することが望ましい』と前回確認事項のとおり表記するのか、検討の過程の中で具体的校名が出ていることであり、報告書からそれが落ちるのはおかしいと考えるのか。なお、その点については、参考資料として学校配置のシミュレーションを添付するが、校名を伏せてはシミュレーションにならないので、これを見れば分かることではある。
- シミュレーションには地域の小学校3校とも入っているのだから、これでいいのではないか。
- 皆さんの意見はどうか。これは避けて通れない問題だが、紆余曲折あろうがこういう情勢の中でやっていかななくてはならない。ここでぶつかってもまた前に進まない。なるべく早くベースに乗せないといけない。
- 小学校3校しかない中で、学校名を入れると指名された感じを受けるのだろう。
- (事務局発言) 事務局としては、滝野川第四小への移転案は現実的ではないという議論を踏まえて、中学校の配置を考えるに当たって外している。協議会の方針は別にして、滝野川第四小の位置に中学校を配置するのは難しいという確認と、小学校を含めて考えるのであれば滝野川第一小の位置か滝野川第七小の位置の可能性が高いだろうという幹事会の論議の認識を確認しておいていただきたい。
- 公立中から私立中を選択する流れがある中で、公立中がどう統合しようと、子どもにとって魅力あるものにしないとけない。中途半端な将来像を提示しては、子どもがますます逃げてしまうのではないかと懸念している。大局的な観点から判断を。
- 難しい問題だが、他に考えようがないだろう。
- (事務局発言) 今までの検討を踏まえての報告書案であるので、幹事の皆さんでご判断をお願いしたい。
- 今まで検討された内容を事務局でまとめたものであり、学校名を出すことがおかしいとなると、幹事会での検討内容に基づいてまとめたのであるにも関わらず、幹事がおかしいと言うならば変えてもいいとなるのはどうか。はっきり書いても良いのではないか。最初に戻ってしまう印象を受ける。
- 今日までの経過の中で意見が出されてきて、このまとめになったのである。
- (事務局発言) 経過を踏まえての報告書案であるので、事実と相違したものではない。経過の中で小学校名は挙がっているものの、小学校名を出すこと自体は確認事項としていない。
- 否定しているのではなく、協議会だよりが発行されて誤解されることを懸念している。協議会だよりが出てそこだけを受け取られ、誤解されることのないようにとの考えである。
- (事務局発言) 前回の確認よりも具体的に書いている。議論を踏まえて幹事会として、滝野川第一小・滝野川第七小という思いはあるがあえて具体名を入れなくてとするのか、一步踏み込んで報告書案のものとするのか。事務局としては滝野川第四小移転案もありうるのかという逆の意味もあって、報告書案になったということは理解頂きたい。地域に影響の大きいことであるので、幹事会でご判断をお願いしたい。
- 『小学校の位置を含めて検討することが望ましい』では、具体的なことがなくて、1年半の間何やっていたのかとなりはしないか。

- 報告書案が提案のとおりとして、事務局としてこの先どうするのか。
- (事務局発言) 教育環境整備協議会は3月末を括りとしているが、それはこの地区を含め8箇所同じである。具体的なまとめになるところ、ならないところがあるが、しばらく行政の中で時間を頂き検討したい。適正配置を進めなければならないということは厳然としてあるので、この様に協議会を続けるか、行政が方向性を示すのかを考え、提示することになろうかと思う。
- この協議会の本旨としては中学校の適正配置であり、田端中と新町中を統合して1校に再配置することは同意している。小学校については、今の段階でどう言うものは出ていないので、どこに置くのかということは判断出来ない。中学校は1校が望ましいと行政に一度預けて、行政の判断に委ねてはどうか。
- 皆で話し合っ欲しいということになれば、小学校については田端地区と中里地区での話し合いになるのではないか。
- いずれにしろ、駒の動かしようがないのではないか。
- (事務局発言) 『統合中学校の配置については、小学校の位置も含めて検討することが望ましい』と改め、資料の中にはシミュレーションを添付するというのでいかがか。
- 皆さんどうか。
- 校名を入れないでも分かることではあるが。
- (賛成多数)
- (事務局発言) では、『統合中学校の配置については、小学校の位置も含めて検討することが望ましい。』と改める。
- 次回全体会を開催する。

滝野川南地区教育環境整備協議会(第3回)

■平成17年3月3日

■田端ふれあい館第1ホール

■次第■

1. あいさつ
2. 検討経過について
3. 検討報告書(案)について
4. その他

■ 発言要旨 ■

- 本日が最後の協議会になるので、十分な議論をお願いしたい。本日確認した事項が地域の1年半のまとめとなる。
- (事務局発言) (経過報告について)(検討報告書案について) 協議会方針(3)については、幹事会で議論いただいたわけではないが、誤解のない表現をということで、風評の無いように加筆した。この方針案についてご審議いただき、了承されたのち、案の字をとり、議会に報告していきたい。
- 学校配置のシミュレーションを添付するのか。
- (事務局発言) できる限り分かりやすいものをと考えている。
- まとめようとして苦労した。委員の皆さんにはご苦労さまでしたと言いたい。しかし、1年半かけてこの程度か、もっとしかるべき意見があったらう、その点が残念である。こうなった一番の原因は、行政が中学校の適正配置としてこの協議会をスタートしたことではないか。この地区だけを小学校・中学校を含めてとは出来ないかもしれないが、これが中学校のことは中学校のみで考えるべきとなった原因ではないか。これからもし具体的にするときには、行政が前に出てイニシアチブをとらないと、一步も進まないだろう。(3)に言ったように、時期を明記していないが、新町中や滝野川第四小では噂になっている。統合についてますます噂になるだろう。東田端地区については、安心して新町中に行ってくださいというのが義務というか、仕事だろう。
- (事務局発言) 北区内8地区でこのような協議会を設けた。浮間地区については児童が増加しているという問題を議論したので、他の地区と違う。残る7地区のうち、いつ、どこを統合したほうがいいのかという結果が出た地区が3地区で、残る4地区については、具体的な話になると進まないという状況であった。各地区の協議会方針をまとめ、議会に報告する。そののち、時間を頂いて行政の中で検討していきたい。委員の皆さんはそれぞれ学校の思い・地域の思いを背負う中で真剣にご検討いただいたと考えている。基本的には平成17年中に中学校の適正配置をこのように考えているということを示し、地域にも相談していきたいと考えている。1年半でここまでなのかという意見は他地区でも同じご意見がある。
- 艱難苦難の道のりでここまで来た。本日のこの協議会をもって座長・副座長の責を解かれる。